

# 美しい四国づくりに向けて

美しさの再発見。広げよう地域の魅力。

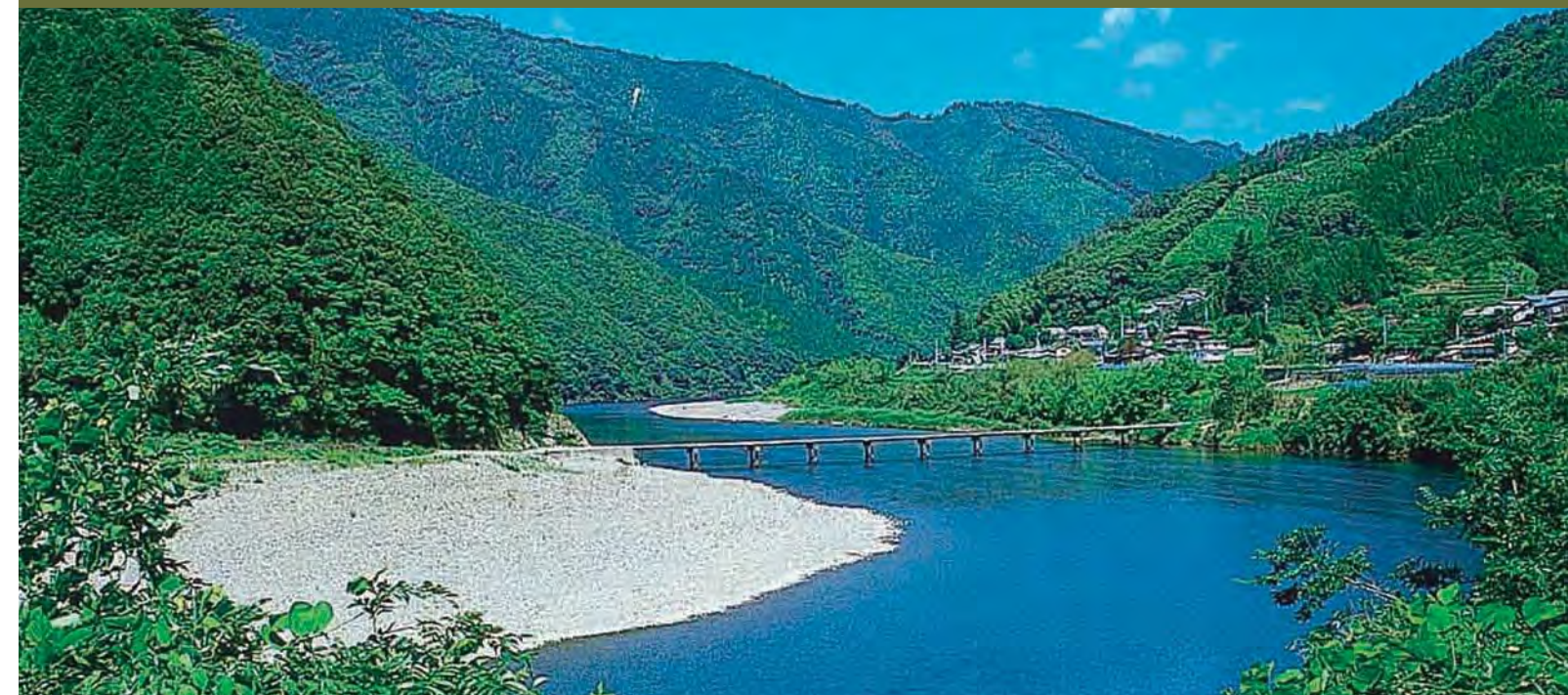


## 美しい四国づくり委員会 事務局

国土交通省四国地方整備局 企画部企画課  
〒760-8554 高松市サンポート3番33号  
TEL.087-851-8061(代表)



これまでの活動報告



美しい四国づくり委員会

## はじめに

---

四国は急峻な地形や多発する水害など厳しい自然条件下にあり、また東南海・南海地震への懸念、ハイペースで進む少子高齢化など社会経済的にも厳しい状況にあります。

一方、温暖な気候と美しく豊かな自然、独自の優れた歴史・文化といった貴重な魅力・資源を有する地域でもあります。

四国の発展を促進する上で、今後こうした地域特性や課題を踏まえた、四国独自の美しさを活かした地域づくりを推進していくことが求められています。

四国地方の一部の地域では、独自の美しさを追求した地域づくりが始まっているものの、未だ個々の取り組みに留まり四国全域で一体的に取り組むまでには至っておらず、また地域住民や産官学の連携も必ずしも十分とは言えない面があります。

今後、観光や地域間交流の振興等により四国の活性化を図るためには、地域住民、産官学が協働し、既存ストックの有効活用を図りつつ美しい自然環境を維持・創出するなど、美しい四国の実現を目指し四国全体が一体となって取り組むことが必要であります。

このことから、「美しい四国づくり委員会」では四国の魅力、地域特性を踏まえ、美しい四国づくりに向けた基本理念、基本方針を取りまとめるとともに、美しい四国づくりシンポジウムにおいて、「美しい四国づくり宣言」を発表しました。

そしてこの度、この取り組みが四国全体への展開の一助になればと、委員会での検討内容を取りまとめるに至ったものです。

今後は、美しい四国づくりに向けた取り組みが、四国全体に拡がり、定着し、発展するとともに、四国が本来持っている魅力の再興に貢献することを強く期待するものであります。

平成19年

美しい四国づくり委員会 委員長

梅原利之

---

# 美しい四国づくりの体系

## 四国の現状

### <景観等の特性>

- 美しい自然景観と個性ある景色・文化
- ふるさとを感じさせる昔からの原風景
- 自然と融合する新たな個性的な景観
- お接待の精神等四国人の人情 等

### <景観の課題>

- 少子高齢化等による中山間地の景観悪化
- 過度の経済活動を重視した産業活動による景観悪化 等

### <社会経済状況>

- 急速に進む少子高齢化、人口減少
- 道路網の整備等により、少しづつではあるが、着実に進む地域間交流 等

## 景観に係わる 法制度等の整備

- 美しい国づくり政策大綱
- 景観法
- 地方自治体が制定する景観条例
- 改正屋外広告物条例
- 景観に関する各種ガイドライン・指針の作成

### 【四国4県の事例】

- 香川県景観形成指針
- 徳島県景観形成指針
- 高知県景観ガイドライン
- えひめ景観計画策定ガイドライン 等

## 「美しい四国づくり」の基本方針

- ふるさとの美しい原風景の保全と継承
- 調和が生み出す新しい魅力の創造
- 四国に根づく心の美しさを活かした取組
- 四国の美のトータル・コーディネート

## 「美しい四国づくり」宣言

～みんなで一緒に「美しさ」からはじめる  
地域づくりのために～

## 四国全体への展開に向けて

～住民主役、行政支援～

- 地域の魅力発見
- 景観づくりに向けた地域の気運醸成
- 地域の魅力の情報共有と発信
- 地域間交流と連携

四国の魅力の再興に向けて

## 「四国の美」の基本理念

- 人々を包み込む心の原風景
- 風景と調和した新たな美の創造
- 四国人の心の美しさ
- 「四国はひとつ」つなぎあう魅力

## ますます高まる 四国の価値

四国は  
安らぎを与える  
癒しの地

### 21世紀は

- 安心を求める時代
- 文明から文化の時代
- ものの豊かさより心の豊かさを重視する時代
- 大交流の時代
- 自律的な観光の時代
- 個性と特色ある地域の時代

# 目次

## 第1章 今「美しい四国」を考えるとき

- 1 「美しい四国づくり委員会」 ..... 1-1
- 2 「美しい四国づくり」の意義 ..... 1-2

## 第2章 四国の景観の特性

- 1 四国の景観の背景 ..... 2-1
- 2 地域エリアごとの景観の特色 ..... 2-3

## 第3章 四国の社会経済の現状

- 1 四国の景観の課題 ..... 3-1
- 2 四国の社会経済状況 ..... 3-3

## 第4章 「四国の美」の基本理念

- 1 基本理念に係わる視点 ..... 4-1
- 2 「四国の美」の基本理念 ..... 4-2

## 第5章 「美しい四国づくり」の基本方針

- 1 基本方針に係わる視点 ..... 5-1
- 2 基本方針 ..... 5-3

## 第6章 「美しい四国づくり」宣言

- 1 「美しい四国づくり」宣言に係わる視点 ..... 6-1
- 2 美しい四国づくり宣言 ..... 6-2

## 美しい四国づくり 全体構成

### 第1章

#### 今「美しい四国」を考えるとき

美しい四国づくりに向けた取り組みの意義などについてまとめています。



### 第2章

#### 四国の景観の特性

四国全域を大きいエリアにわけ、それぞれの景観の特性をまとめています。

### 第3章

#### 四国の社会経済の現状

四国の社会経済の状況を景観の課題とともにまとめています。



### 第4章

#### 「四国の美」の基本理念

四国の景観の特性を踏まえ、基本理念に係わる視点について整理し、基本理念の内容についてまとめています。



### 第5章

#### 「美しい四国づくり」の基本方針

基本理念と現状認識を基に、「美しい四国づくり」に向けた4つの基本方針をまとめ、それに対応する四国内の事例を整理しています。



### 第6章

#### 「美しい四国づくり」宣言

「美しい四国づくり」宣言に係わる視点と、宣言を構成する3つのテーマそれぞれについてまとめています。



## 第1章

### 今「美しい四国」を考えるとき

## 1 「美しい四国づくり委員会」

- 四国は瀬戸内の美しい島々、四万十川の清流、祖谷川の渓谷、四国山地の山々等美しい自然景観が残されている。
- 豊稔池堰堤や空海が改修した満濃池、しまなみ街道、瀬戸大橋、大鳴門橋など、四国の暮らしを支えるため造り上げてきた人工構造物は、自然条件の厳しい四国の中で、生活の一部となり、自然と調和、融合している。
- お遍路さんやお接待に代表されるように、豊かな歴史・文化と細やかな人情があり、そこに生きてきた人々の調和のとれた暮らしが息づいている。
- 地域間交流の時代において、安らぎを与える癒しの地として、四国の価値はますます高まっており、四国独自の美しさを活かした魅力ある地域づくりを進めていくことが求められている。
- これらを踏まえ、平成17年9月に産学官の委員からなる「美しい四国づくり委員会」を設立し、すでに実施されている先進的な取り組み事例を踏まえつつ、美しい四国づくりのための基本的な理念及び方針、実施すべき施策の提言を取りまとめた。さらに、個別の箇所の具体施策のアドバイス、四国全体の取り組みのフォローアップ等を通じて、美しい四国づくりに向けた継続的な活動を応援する。



写真1.1 かずら橋(徳島県)



写真1.2 渦潮と大鳴門橋(徳島県)



写真1.3 石鎚山(愛媛県)

## 2 「美しい四国づくり」の意義

- 21世紀は、文明ではなく文化の時代と言われている。日本で豊かな文化を持っているのは地方であり、美しい景観を残し育てるためには、地方が元気になる必要がある。
- 四国には、「海に向かった水平な目線の期待感」、「山を見上げることによる祈り」の両方がそろっており、心がやすらげる地域である。
- 四国には、歴史的な風景が多く残されており、現在では貴重な景観資源となり、八十八箇所巡りやお接待の文化が各地を結びつけている。各地域がこの資源を保全するためには、持続的に活用することが大切である。
- 文化は交流の中で磨かれるものである。素晴らしい文化を維持するためには、地域同士の交流が求められる。
- 観光交流の対象は、国内だけでなく、国際的になりつつあり、日本の各地だけでなく、世界の地域との競争になっている。世界的にオンリーワンのものがあると、世界の人々が訪れるようになる。
- 四国にある貴重な景観資源の活用により、景観を美しくするとともに、美しい気持ちを持った人を育て、人と人の交流・連携が求められる。



写真1.4 豊稔池石積式アーチダム(香川県)



写真1.5 鶺鴒い(愛媛県)



写真1.6 よさこい祭り(高知県)



丸亀市塩飽本島町笠島(香川県)  
選定年月日:昭和60年4月13日



美馬市脇町南町(徳島県)  
選定年月日:昭和63年12月16日



内子町八日市(愛媛県)  
選定年月日:昭和57年4月17日



三好市東祖谷落合(徳島県)  
選定年月日:平成17年12月27日



室戸市吉良川町(高知県)  
選定年月日:平成9年10月31日



位置図

## 第2章

# 四国の景観の特性

## 1 四国の景観の背景

### 1) 地形及び地質の特徴

○大きさは東西約280km、南北約200km。総面積は18,790km<sup>2</sup>である。



図2.1 四国地方衛星写真

○波穏やかで3,000もの島が浮かぶ瀬戸内海、荒々しく雄大な太平洋ほか四方を海域に囲まれている。



写真2.1 波穏やかな瀬戸内海(香川県/五色台)



写真2.2 荒々しく雄大な太平洋(高知県/桂浜)

○中央部を東西に走る四国山地は、中央アルプスに次いで、鉛直隆起量の大きな地域であり、四国を瀬戸内海側と太平洋側に分けている。

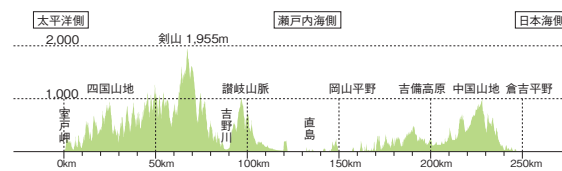


図2.2 四国の断面図

○四国山地は、石鎚山国立公園、剣山国立公園、四国カルスト自然公園などが指定されるなど、豊かな自然景観を有している。



写真2.3 ブナ原生林(徳島県/剣山国立公園)

○東西に走る中央構造線と仏像構造線の影響により、山地の地質は脆弱で、土石流、崖崩れが発生する危険性が高い地域である。

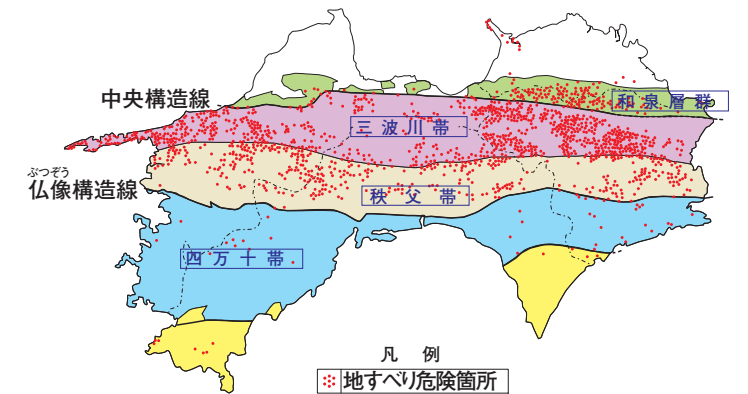


図2.3 地すべり防止区域等の分布

○四国山地での降雨が吉野川、仁淀川、物部川、四万十川など幾筋もの清流を生んでいる。



写真2.4 四万十川(高知県)

### 2) 気候の違い

- 四国山地を境に南と北では大きく気候が異なる。
- 瀬戸内海に接した北側は、瀬戸内式気候で年間降雨量は1,500mm以下である。大きな河川がなく、過去には大湯水に見舞われている。
- 太平洋側は、太平洋側気候で年間降雨量は2,500mm以上である。集中豪雨も多く、過去には甚大な洪水被害が発生している。

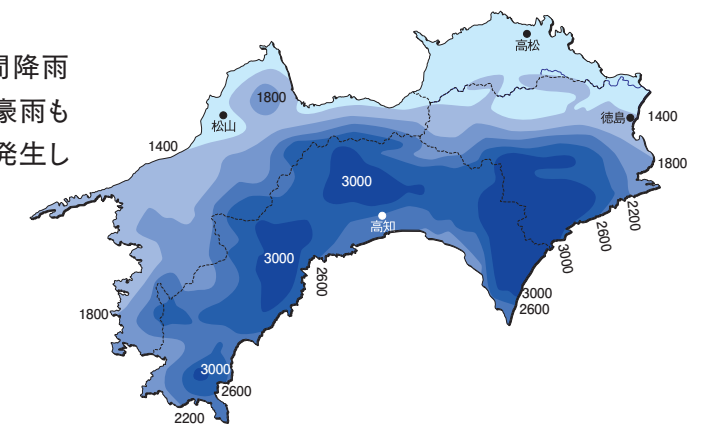


図2.4 年間降雨量分布

## 2 地域エリアごとの景観の特色

地形や気象条件、最近まで交通網の整備が遅れていたことから、エリアごとに産業や文化が独自に発達し、地域の個性が残されており、その特色を踏まえると次に示すように大きく「瀬戸内ゾーン」、「山間部ゾーン」、「太平洋ゾーン」に分類することが考えられる。

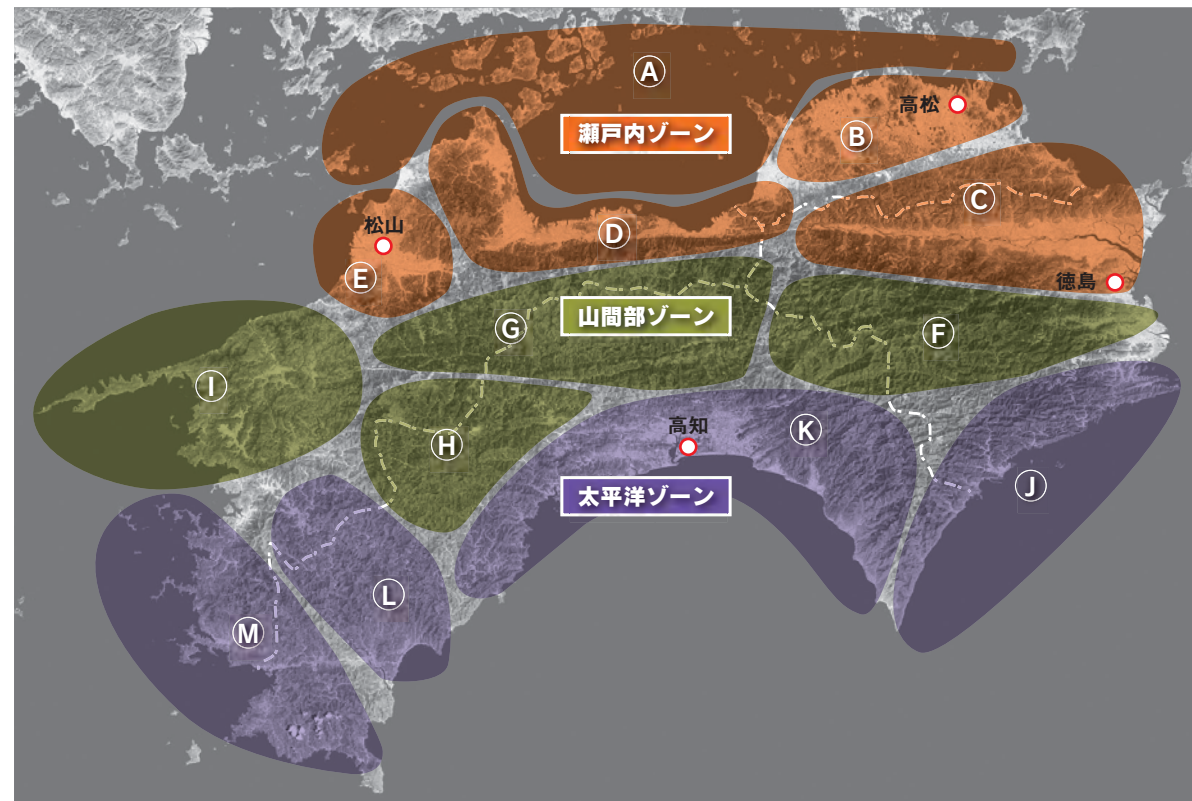


図2.5 ゾーン及びエリア区分

### 1) ゾーンの特徴

#### ① 瀬戸内ゾーン

- 四国の北部に位置する瀬戸内ゾーンは、温暖少雨の気象で、穏やかな瀬戸内海とそれに面した大小の平野からなる。昔から瀬戸内海の航路を中心とした地域間交流の盛んな地域である。
- 瀬戸内海に広がる多島海の景観は、日本初、及び最大規模の国立公園として指定されている。
- 臨海部は、瀬戸内工業地帯の一翼を担い、大規模工場が立地している。
- 少雨であることから、満濃池をはじめとするため池が多く残されている。
- 瀬戸内ゾーンでは、日照時間の長さ、平地の少なさを理由に、斜面を有効に活用した段々畑が多く見られる。

#### ② 山間部ゾーン

- 四国の中央部に位置する山間部ゾーンは、2,000m級の急峻な地形であり、その険しい地形は優れた山岳渓谷美をつくっている。
- 四国の屋根ともいわれる石鎚山系の山岳景観などは国立公園に指定されている。
- 急峻な地形のなかでは、山の側面を利用した集落が形成され、林業のほか、棚田や段々畑を利用した農業が営まれている。
- 山間部ゾーンは日本有数の多雨地域であり、年間3,000mmの降雨を記録する。また冬期は季節風を受け寒さが厳しい。

#### ③ 太平洋ゾーン

- 四国の南部に位置する太平洋ゾーンは、平野や山地、入り組む海岸など多様な地形を呈している。
- 東西に位置し2県に跨る2つの国立、国定公園は穏やかな砂浜と磯辺の海岸までさまざまな表情を見せる。
- この地域は温暖多湿な気候と水利の便の良さから、早期米が収穫され、野菜のハウス栽培も盛んに行われる。
- 四国山地での降雨が四万十川をはじめ幾筋もの清流を生み、太平洋に流れ込む。また、川では豊かな自然の恵みを受け、川漁が行われる。



## 1 瀬戸内ゾーン

### A：瀬戸内島嶼エリア

穏やかな海に囲まれた瀬戸内海の島々は多島美を賞されるように印象的な地形となっている。また、瀬戸内海の恩恵を受け、漁業等が盛んである。

### B：讃岐エリア

讃岐平野が広がり、その中に見る、やさしく丸み帯びた特徴的な山々と点在するため池の風景が印象的である。ため池の一つで日本最大である満濃池は、1,300年ほど前に創築され、弘仁12年に空海が修築したといわれている。

### C：吉野川エリア

雄大な吉野川の流域にあつて、吉野川と地域の生活が密接に係わり、その係わりが地域の歴史となり、文化となっている。また、毎年県下各地で繰り広げられる阿波おどりは、日本を代表する祭りとして夏の風物詩となっている。

### D：燧灘ひいらぎ灘エリア

山と海に囲まれ、南方の山地からの強風(やまじ風)が吹き付ける地域である。このため、風で瓦が飛ばないように屋根には石やブロックを置いている住宅が点在している。

### E：伊予・松山エリア

松山平野が広がる地域である。松山城を中心に同心円上に発展し道後温泉をはじめ歴史豊かな地域である。

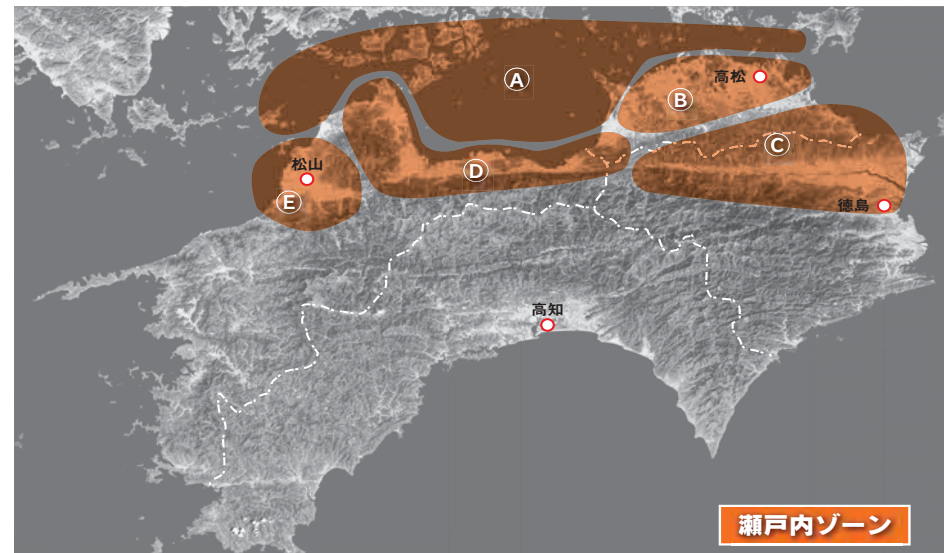


図2.6 瀬戸内ゾーンエリア区分



写真2.5 瀬戸大橋(香川県: A)



写真2.6 紫雲山から見た瀬戸内海(香川県: A)



写真2.7 満濃池(香川県: B)

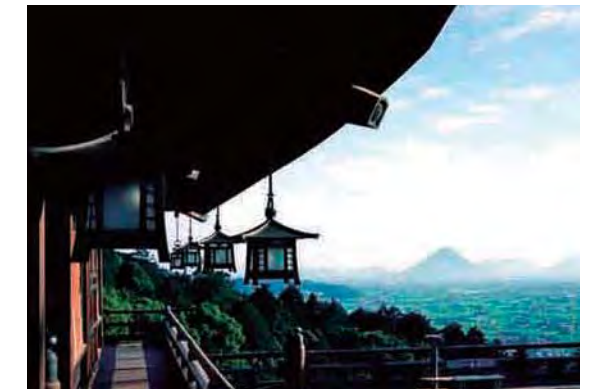


写真2.8 金比羅宮から讃岐平野を望む(香川県: B)



写真2.9 吉野川(徳島県: C)



写真2.10 阿波おどり(徳島県: C)

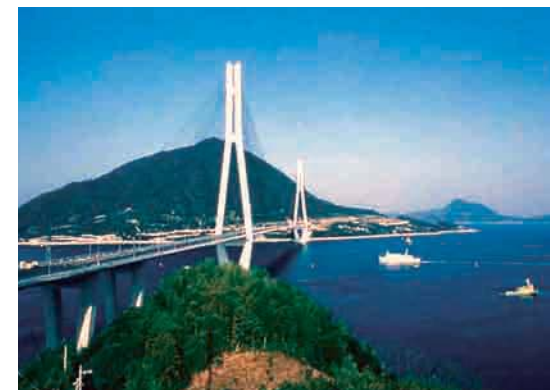


写真2.11 しまなみ海道(愛媛県: D)



写真2.12 松山城(愛媛県: E)

## ② 山間部ゾーン

### F：剣山エリア

剣山国定公園を有する山岳地帯で、大歩危・小歩危や支流の祖谷溪などの溪谷を含む、自然豊かな地域である。

### G：石鎚山エリア

西日本最高峰の石鎚山を中心とする石鎚山国定公園を有する山岳地帯で、険しい山地、溪谷といった自然豊かな地域である。また、山岳景観を主とする国定公園の中で、異なる趣を添えるのが面河溪である。

### H：四国カルストエリア

日本の三大カルストの一つに数えられている四国カルストは、石灰岩が雨水の溶食作用の影響を受けて特徴的な風景を呈している。

### I：伊予灘エリア

複雑に入り組んだ特徴的なリアス式海岸と急斜面の地形を活用した何段もの棚田の風景が印象的な地域である。また、明治時代に養蚕や製糸で栄えた家並みが随所に残っている。

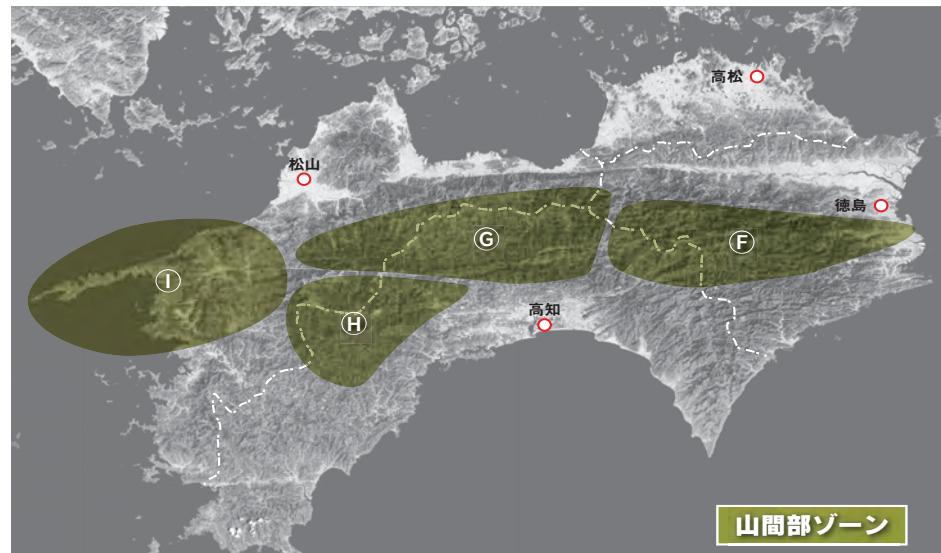


図2.7 山間部ゾーンエリア区分



写真2.13 剣山(徳島県: F)



写真2.14 大歩危・小歩危(徳島県: F)



写真2.15 石鎚山(愛媛県: G)



写真2.16 面河溪(愛媛県: G)



写真2.17 四国カルスト(愛媛県: H)



写真2.18 笹まつり(愛媛県: I)



写真2.19 内子町泉谷の棚田(愛媛県: I)



写真2.20 大洲市おはなはん通り(愛媛県: I)

### ③ 太平洋ゾーン

#### J：阿南・室戸エリア

阿南室戸海岸国定公園を有する地域である。海岸線は、複雑に入り組んだリアス式海岸であり、その特徴的な地形を活用した港町が点在している。

#### K：土佐エリア

厳しい気候からくる(豪雨対策)建築様式による町並みは、印象的な景観を呈している。また、太平洋の恵みを受けた漁業や気候の恵みをうけた農業が盛んに行われている。

#### L：四万十川エリア

四万十川流域の地域は、清流四万十川の恵みを受け生活、文化そして歴史を形成してきた地域である。

#### M：足摺・宇和島エリア

足摺宇和海国立公園を有する地域である。複雑に入り組んだリアス式海岸、その背後には、南斜面を利用した段畑が印象的な地域である。

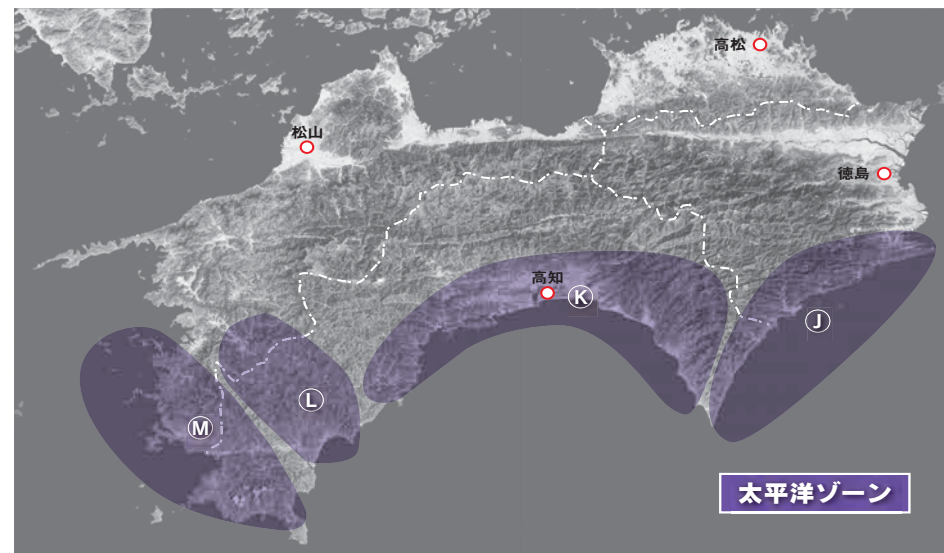


図2.8 太平洋ゾーンエリア区分



写真2.21 日和佐海岸(徳島県: J)



写真2.22 室戸岬(高知県: J)



写真2.23 安芸市伝統的建造物群(高知県: K)



写真2.24 日曜市(高知県: K)



写真2.25 桂浜(高知県: K)



写真2.26 四万十川の沈下橋(高知県: L)



写真2.27 遊子の段々畑(愛媛県: M)



写真2.28 足摺岬(高知県: M)

コラム-2 四国の地域をつなぐ遍路道



徳島県吉野川市



高知県室戸市



愛媛県宇和島市



香川県さぬき市

## 第3章

# 四国の社会経済の現状

## 1 四国の景観の課題

景観は人の係わりにより、よくも悪くも変化する。戦後の高度成長期には、経済的豊かさを求めてきた中で、早急なインフラ整備が必要不可欠だった。残念ながら、量的充足を追求するあまり、質の面でおろそかになり、自然空間では周囲と調和しない施設等景観上の課題が残っている。また、中山間地では過疎化等により山林や田畑の適切な管理が行き届かないことや、家屋等が放置されることによって、環境が破壊され景観悪化に繋がっている。一方、都市空間では、公共の意識の不足に加え、過度の経済活動を重視した商業活動等が課題となっている。

### 1) 自然空間の変化

#### ① コンクリートブロックで固められた河岸及び海岸

- コンクリートブロックが設置された河岸や海岸の一部では、景観が悪化したり、親水性が阻害されている。



写真3.1 コンクリート護岸(香川県)

#### ② 手入れの行き届かなくなった人工林

- 近年の木材の製品価格の下落、それに伴う自給率の低下により、林業従事者が減少し、手入れの行き届かなくなった人工林が見られる。
- 台風などにより倒木や土砂災害の影響を受けやすくなっている。



写真3.2 手入れされていない人工林(高知県)

#### ③ 雑草で覆われた棚田

- 自然空間における棚田は中山間地の過疎化・高齢化のために担い手が不足し、雑草で覆われた棚田がみられるようになった。



写真3.3 雑草で覆われた棚田(徳島県)

#### ④ 空き家

- 中山間地では、所有者が都市に移住するなどして放置された家屋などが見られる。



写真3.4 空き屋(徳島県)

### 2) 都市空間の変化

#### ① 景観を阻害する防護柵

- 景勝地において、透過性の低いガードレールが景観を阻害している。



写真3.5 景観を阻害する防護柵(愛媛県)

#### ② 電線・電柱類

- 電線・電柱類は地上に整備され、公共空間の景観を阻害している。

#### ③ 屋外広告物

- 過度の経済活動を優先した屋外広告物等が、沿道の景観を阻害している。



写真3.6 煩雑な電柱・電線(香川県)

#### ④ その他

- 観光施設の廃屋、自転車等の放置等、都市空間の景観を阻害している。



写真3.7 氾濫する屋外広告物(高知県)



写真3.8 歩行を阻害する放置自転車

# 2 四国の社会経済状況

四国は、全国の約5%の面積と約3.3%の人口と約3%の総生産を有する。既に20年前から人口が減少しており、全国に先駆けて、高齢化が約6年早く進んでいる。このような状況の中で、特に中山間地において自然空間の景観をどのように守っていくかが大変重要な課題となっている。

また、四国外からの観光客については、しまなみ海道等の開通後増加したものの、その後は停滞している。四国の魅力のPRや四国外との交流も課題となっている。

## 1) 全国より早いペースで進む人口減少

- 四国の人口ピークは、全国より20年早い1985年であり、その後、減少傾向である。

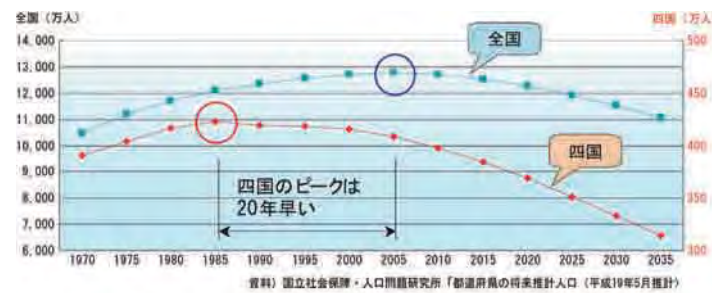


図3.1 人口推移予測グラフ

- 四国の高齢者人口(65歳以上)の推移は、全国より約6年早いペースで進展している。

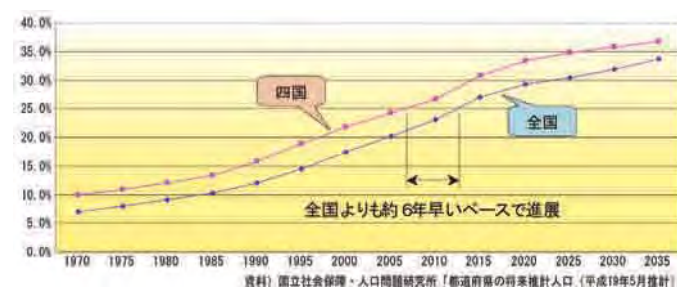


図3.2 高齢化人口の推移

- 普請の精神を継承し、清掃等の活動をしている道路ボランティア・サポート・プログラムは、全国の約4分の1を占めるに至っており、また、河川アドプト活動も年々増加の傾向にある。

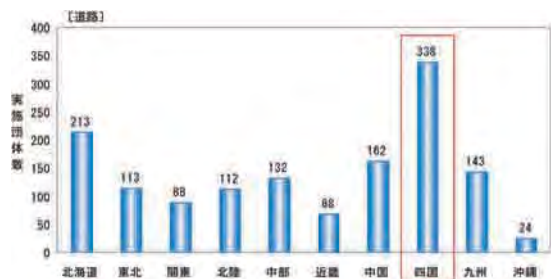


図3.3 道路ボランティア・サポート実施団体数



図3.4 四国内の河川アドプト活動実施団体数と活動延長

## 2) 四国の社会経済状況

### ① 道路の整備状況

鳴門大橋開通から約20年、瀬戸大橋をはじめ本州とは3ルートが開通するとともに、四国4県の県庁所在地は全て高速道路で結ばれた。また、四国をつなぐ道路の四国8の字ネットワーク整備も着実に進んでおり、本州四国連絡道路開通後、四国総生産額の対全国比率は長期減少から増加に転換している。



図3.5 鳴門大橋開通時(S60.6)



図3.6 現況(H19.4)

高速道路等の 供用延長	全国	3,555km	四国	11km
	全国	8,730km	四国	545km



図3.7 四国総生産額と対全国比

### ② 四国四県への観光入込客数

近年では、明石海峡大橋及びしまなみ海道開通により、四国への観光客数が増加している。特に愛媛県への観光客数の増加が顕著である。

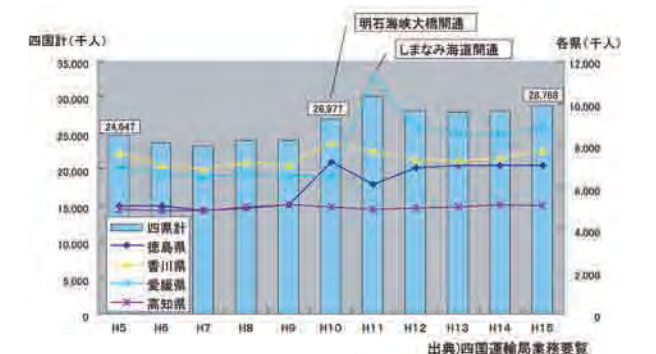
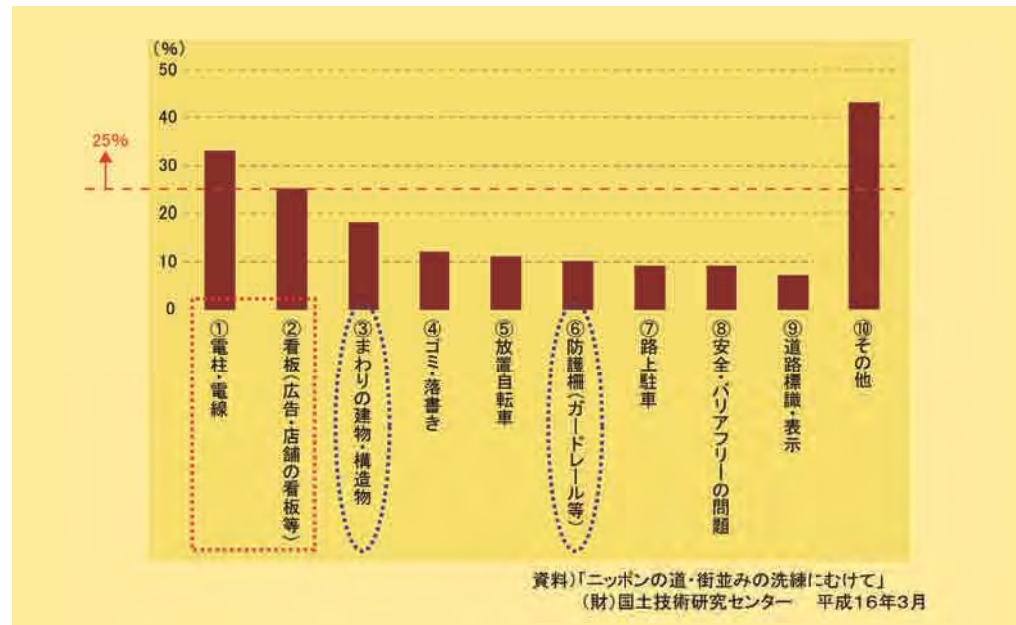


図3.8 四国四県への観光入込客数(県外客)

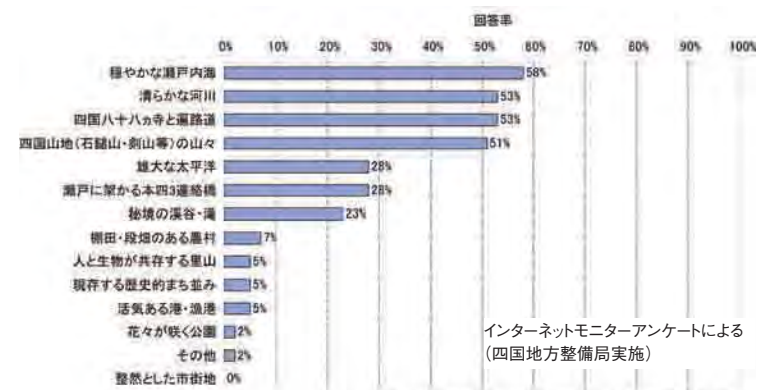
コラム-3 住民の景観に対する意識

「残したくない景観」

○ 「ニッポンの道・街並みの洗練にむけて」のアンケート結果によれば、電柱・電線、看板を残して欲しくないと回答した人は4人に1人となっている。



「美しい四国の景観」



穏やかな瀬戸内海



四国山地(石鎚山・剣山等)の山々



四国八十八ヶ寺と遍路道



清らかな河川

第4章

「四国の美」の基本理念

### 1 基本理念に係わる視点

- 四国には、太平洋から瀬戸内海、急峻な山、清流等、スケールの大きい自然や多様性のある自然があり、これらを背景とした個性ある景色や文化が詰まっている。
- 四国には、美しい手付かずの自然や里山・棚田等が多数残されている。また、交通事情の関係で、最近まで四国内の移動も困難であったことから、個性的な発展を遂げた街の風景や農村や漁村の人々が織りなす風景等、ふるさとも感じさせる昔からの原風景が残っている。
- 日本の原風景といえる景観は、戦後の経済成長の影響で数少なくなっているため、四国の原風景は世界に誇れる心の安らぎの空間と言える。
- 昔から造り上げられてきた土木構造物も、自然条件が厳しい四国では、生活の一部として自然と融合し、自然とのコントラストを見せて個性的な風景を演出している。
- 古来より四国では、満濃池普請や道普請など、地域の人々が勤労奉仕により、地域の共有財産を自分達で造るという普請の精神が根づいており、ボランティア団体も全国に比べ多い。お遍路さんを迎えるお接待の精神も文化として受け継がれており、こうした四国人の人情が四国の景観をいっそう美しく感じさせる要因となっている。
- 八十八ヶ所巡りのお遍路さんは、様々な個性のある四国の地域を歩くことにより、四国の多様な景観、四国人の人情等を体感し、ひとつの物語を作っていく。

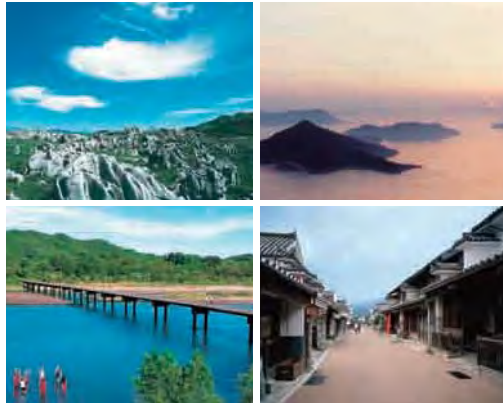


「四国の美」の基本理念

人々を包み込む心の原風景  
風景と調和した新たな美の創造  
四国人の心の美しさ  
「四国はひとつ」つなぎあう魅力

金刀比羅宮から讃岐平野を望む(香川県)





左上 写真4.1 四国カルスト(愛媛県)  
 左下 写真4.2 四万十川(高知県)  
 右上 写真4.3 瀬戸内海(香川県)  
 右下 写真4.4 うだつの町並み(徳島県)

## 人々を包み込む心の原風景

変化に富んだ美しい手付かずの自然。  
 個性的な発展を遂げた街。  
 農村や漁村などの人々の  
 営みが織り成す風景。  
 四国には、ふるさと感じさせる風景と  
 そこに生きる人々の調和の取れた暮らしぶりが  
 よく残されている。

- 四国の魅力は、人も包み込むような何もかも忘れさせてしまう原風景である。
- 人々の暮らしが働きかけつづけてきた景色も原風景となっている。
- 自然が人に対峙するのではなく、自然が人を包み込むような暖かい雰囲気、人情にフィットするような自然がある。



写真4.5 瀬戸大橋(香川県)

## 風景と調和した新たな美の創造

昔から厳しい自然や地理的不便さを克服してきた  
 四国の暮らし。  
 それを支えるために人知が造り上げた構造物は、  
 自然と融合し、また、ときに自然とのコントラストを見せて、  
 個性的な風景となっている。

- 四国の暮らしを支えるための構造物は、人々の生活の一部として、個性的な風景を演出している。



左上 写真4.6 お接待体験(愛媛県)  
 左下 写真4.7 日曜市(高知県)  
 右上 写真4.8 阿波踊り(徳島県)  
 右下 写真4.9 三味線餅搗き(香川県)

## 四国人の心の美しさ

四国には、自分たちの地域を自分たちの手で  
 ふるさどを守り育む「普請の精神」と  
 お遍路さんをはじめ訪れる人々を暖かくもてなす  
 「お接待の心」が根付いている。  
 こうした心の美しさも四国の大切な宝。

- 四国の普請の精神が、風景を守ろうとする取り組みの力となり、お接待の精神が景色を味わい深くしている。



写真4.10 根香寺(香川県)

## 「四国はひとつ」つながりあう魅力

四国は一周約1,400kmを海に囲まれた独立した地域。  
 ここに、原風景や人々の営みにより創造された風景、  
 そして人々のふれあいなど、さまざまな美しさを醸成している。  
 遍路道のように「四国がひとつ」につながったとき、  
 トータルな美の世界、それこそが四国の魅力。

- 各地域が各々の個性を保ちつつ、数珠のようにつながりあうと四国全体としての魅力を発揮できるようになる。

## 第5章

# 「美しい四国づくり」の基本方針

## 1 基本方針に係わる視点

- 価値観の多様化により、ものの豊かさより、心の豊かさを重視する時代になり、全国一律ではなく、地域が独自にそれぞれの個性、特色、歴史、文化に配慮しながら、地域の自発的な取り組みにより、個性と特色のある地域づくりを進める時代となっている。
- 近年、急速な都市化の終息に伴って、美しい町並みなど良好な景観に関する国民の関心が高まり、一部の地方公共団体において景観に関する自主条例が制定される等、良好な景観形成に向けた取り組みが進められている。
- 美しい四国をつくるという共通認識のもと、自分のふるさとを自分達の手でよくするため、現状では風化しつつある普請の精神を再興する必要がある。そして、美しい四国を愛する住民と訪れる人々によってさらに四国を美しくしていくことが大切である。
- 美しい四国づくりの効果をあげるには、地域が楽しみながら自分の地域をよくし、訪れるひとにも楽しんでもらう。また、四国各地が独自に行うのではなく、四国がひとつにまとまり全体として魅力をアピールする必要がある。



写真5.1 観光客で賑わう町並み  
(愛媛県内子町)



写真5.2 新町川のイベントの様子  
(徳島県新町川)



写真5.3 農村舞台の復活公演  
(徳島県神山町)

### 【参考:景観に関する法制度等】

以下のような法規等により、地域の景観に関する取り組みの法的根拠が整理されている。

#### ① 美しい国づくり政策大綱(平成15年7月)

景観形成ガイドラインの作成、都市近郊の大規模な緑の創出、違反屋外広告物の整理、電線類の地中化など、景観整備の基本的な考え方と具体的な施策をまとめた政策大綱である。

#### ② 景観法(平成16年6月)

都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進することを目的とした法規である。景観法自体は直接規制するものではなく、景観行政団体が景観に関する計画や条例を制定する際の根拠法令となるものである。

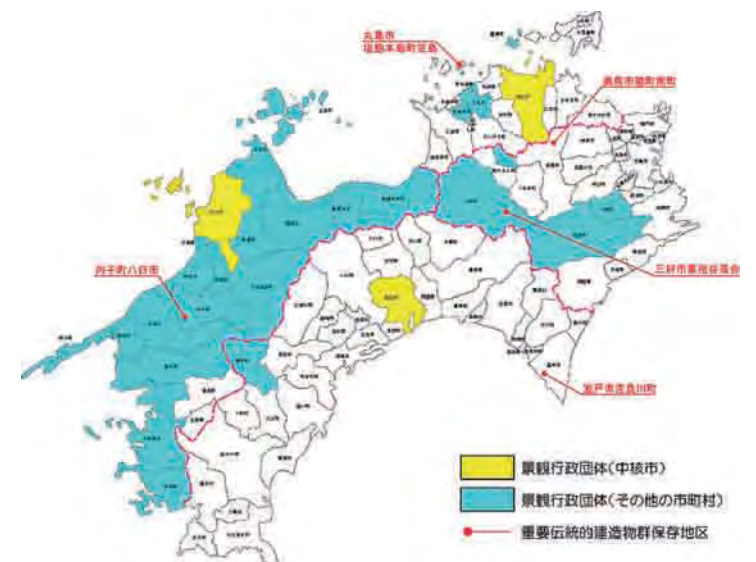


図5.1 四国地方の景観行政団体(平成19年11月1日 現在)

#### ③ 景観条例

美しい町並みや良好な都市景観を形成・保全するため等に、地方自治体が制定する条例である。条例制定にあたっては、景観の保全等に必要地域指定の基準や行為の制限等に係る具体的な内容が記載される。

#### ④ 屋外広告物法の改正(平成17年7月)

屋外広告物に関する規制を行う法規である。改正により景観行政を行う市町村の屋外広告物に関する条例の策定を可能としたと同時に、対象区域の全国への拡大、対象物権の拡大と要件の緩和、広告業者の登録制が採られるようになり、規制の実効性が向上した。

#### ⑤ 四国独自の景観に関する計画(指針類)等

四国4県においては、各地域の特性を踏まえた景観形成を目的に、指針やガイドラインを策定している。

- ・香川県景観形成指針
- ・徳島県景観形成指針
- ・高知県景観ガイドライン
- ・えひめ景観計画策定ガイドライン 等

## 2 基本方針

現状の四国の景観を「四国の美」の基本理念に近づけるための基本的な方針を以下に示す。



写真5.4 歴史的町並みの保全  
(徳島県・美馬市)

人々を包み込む心の原風景

### ふるさとの美しい原風景の 保全と継承



写真5.5 自然景観に調和した公共空間の整備  
(香川県・まんのう町)

風景と調和した新たな美の創造

### 調和が生み出す 新しい魅力の創造



写真5.6 ボランティア・サポート・プログラム  
(愛媛県・愛南町)

四国人の心の美しさ

### 四国に根づく 心の美しさを活かした取組



写真5.7 広域観光ネットワークの景観演出/  
四万十川広域観光推進協議会  
(高知県西南地域)

「四国はひとつ」つなぎあう魅力

### 四国の美の トータル・コーディネート

## ふるさとの美しい原風景の保全と継承

失われつつある四国の美しい自然、農村・漁村、歴史的町並みを保全、修復、再生し、後世まで伝えていく。



写真5.8 歴史的町並みの保全  
(徳島県・美馬市)

#### ◀ [歴史的町並みの保全]

地域住民が町並みの素晴らしさやその価値を認識し、住民と行政が一体となった町並み保存運動を実施している。また、強いリーダーシップのもと、映画のロケ招致・グリーンツーリズム推進などの観光まちづくりを推進している。



写真5.9 瀬戸内海花いっぱい運動  
(香川県・三豊市 志々島)



写真5.10 森林保全・再生  
／植林活動  
(高知県・梶原町)



写真5.11 棚田の保全／棚田のオーナー制度  
(徳島県・上勝町)

#### 【美しい四国づくりの事例】

##### ● 歴史的町並みの保全 (徳島県・美馬市)

- ・有名作家の絶賛による町内外の注目
- ・地域住民も町並みのすばらしさ、価値を認識、強いリーダーシップの存在

##### ● 瀬戸内海花いっぱい運動 (香川県・三豊市 志々島)

- ・美しさに関する参加者の強い思い
- ・かつての島を再生するという共通の価値認識、負担を分かちあう仕組み

##### ● 森林保全・再生／植林活動 (高知県・梶原町) (主として間伐)

- ・地域の交流資源(文化・食材と間伐)、都市との交流、河川の上下流で水源を守る

##### ● 棚田の保全／棚田のオーナー制度 (徳島県・上勝町)

- ・地域存続に係わる危機的状況の共通認識、交流の輪により負担を分担

- ふるさとの美しい原風景は自然と人との共同作品であり、地道な人の営みにより守られるものである。
- 地域住民が町並みの素晴らしさやその価値を認識し、住民と行政が一体となって、保全や継承を行う。
- 地域の担い手となるべき人材を育成し、強いリーダーシップのもと、交流の拡大等により活性化に努める。

## 調和が生み出す新しい魅力の創造

景観を阻害する人工物の排除や、景観と調和した施設などの整備により、新しい魅力を吹き込んだ空間づくりを進める。



### ◀【電線類の地中化事業】

景観を阻害する電線・電柱を地中化等により取り除く取り組みを進めている。そのため、電線管理者等関係者との合意形成を積極的に進めている。



写真5.12 電線類の地中化事業  
(徳島県・徳島市)



写真5.13 自然景観に調和した公共空間の整備／四国スタンダード  
(香川県・まんのう町)



写真5.14 現代アートの融合による新しい美の創造  
(香川県・直島町)

写真5.15 空き店舗を活用した放置自転車対策  
(香川県・高松市)

### 【美しい四国づくりの事例】

#### ●電線類の地中化事業(徳島県・徳島市)

- ・関係者の合意形成による良好な道路空間の創出

#### ●自然景観に調和した公共空間の整備／四国スタンダード(香川県・まんのう町)

- ・美しさに関する参加者の強い思い
- ・地場産品を活用した木製防護柵
- ・周辺景観に配慮するという意識の醸成

#### ●現代アートの融合による新しい美の創造(香川県・直島町)

- ・民間企業との協働と連携
- ・民間企業による地域振興への寄与

#### ●空き店舗を活用した放置自転車対策(香川県・高松市)

- ・地域自らが課題を改善(空間の有効利用)
- ・関係者の地域を良くしようと意識の醸成

- 良質な人工物は、四国に残る美しい原風景をより美しく輝かせる。電線や屋外広告物等景観を阻害する人工物について排除し、景観と調和した施設などを整備する。
- 背景に山、海、川がある四国において、景観に配慮した公共空間を整備することにより、新たな魅力を創造する。

## 四国に根づく心の美しさを活かした取組

現代において風化しつつある四国伝統の普請、お接待の精神を再興し、地域で力をあわせて、美しい四国づくり運動を推進する。



### ◀【地域主導による美しい河川空間形成】

自分たちで自分たちの地域を美しくしたいというモチベーションにより、住民主導でいきいきとした地域づくりを行っている。新町川を地域の大切な観光資源として捉え、自ら観光イベントなどを行っている。



写真5.17 ボランティア・サポート・プログラム／ふれあい四国路  
(愛媛県・愛南町)



写真5.18 住民主導による美しい町並み創造／たくみの会  
(高知県・梼原町)



写真5.19 美しい四国づくりモデル事業／重信川の自然再生事業  
(愛媛県・松山市)

写真5.16 地域主導による美しい河川空間の形成  
(徳島県・徳島市)

### 【美しい四国づくりの事例】

#### ●地域主導による美しい河川空間の形成(徳島県・徳島市)

- ・地域の手による地域の観光資源と捉えた積極的な取り組み
- ・会自らが主導で運営資金を調達、支援する行政の存在

#### ●ボランティア・サポート・プログラム／ふれあい四国路(愛媛県・愛南町)

- ・住民らの活動に対する行政の後押し
- ・地域が自ら地域を美しくしたいという意識の醸成

#### ●住民主導による美しい町並みの創造／たくみの会(高知県・梼原町)

- ・代替地計画等の調整役を住民主体の団体が主導、地域住民の強い自立意識
- ・住民らの活動に対する行政の後押し

#### ●美しい四国づくりモデル事業／重信川の自然再生事業(愛媛県・松山市)

- ・官・民・学の協働
- ・地域の魅力の発見と創造

- 各地で始まっている美しい四国づくりは、現代において風化しつつある四国伝統の普請、お接待の精神等に支えられている。
- 自分たちで自分達の地域を美しくしたいというモチベーションにより、住民主導でいきいきとした地域づくりを行う。
- 地元もよそ者も一体となる雰囲気、「ここはあなたの四国です」という四国固有のお遍路文化やお接待文化、これを四国全体で再興する。

## 四国の美のトータル・コーディネート

四国各地での取り組みをつなぎ合い、相互に高め合い、総合的にコーディネートすることによって、トータルとしての四国の魅力を発揮する。



### ◀ [広域観光ネットワークの景観演出]

これまで、個々で活動を行ってきたボランティア団体を結束し、知名度の高い「四万十川」を表看板に、長期滞在型のリゾート地の実現という共通目標のもと、官民による広域的な連携体制により推進している。



写真5.20 広域観光ネットワークの景観演出／  
四万十川広域観光推進協議会(高知県西南地域)



写真5.21 四国のみち  
(四国のみちハイキング)



写真5.22 歴史文化道  
(松山歴史文化道)

写真5.23 四国ふるさと普請の取り組み／6つの分科会にて意見交換後、全体会にて総括

## 第6章

# 「美しい四国づくり」宣言

### 【美しい四国づくりの事例】

#### ● 広域観光ネットワークの景観演出／ 四万十川広域観光推進協議会(高知県西南地域)

- ・「日本最後の清流」というブランド意識、観光資源としての価値認識の共有
- ・四万十川を守るという参加者それぞれの強い思い、官民連携体制

#### ● 四国のみち(四国のみちハイキング)

- ・行政間の連携
- ・地域資源の活用(お遍路文化の継承)

#### ● 歴史文化道(松山歴史文化道等)

- ・官・産・民の連携
- ・地域の資源の活用(地域の物語の継承)

#### ● 四国ふるさと普請の取り組み

- ・交流の拡大が更なる取り組みの増進につながる好循環の形成
- ・やりがいのある元気な地域づくりの取り組みの推進

- 地域における美しい四国づくりの取り組みを、官民連携のもと、つなぎ合わせ、四国内外に広く情報発信することにより、国内のみならず世界に交流の輪を広げる。

## 1 「美しい四国づくり」宣言に係わる視点

- 自立した地域が連携・交流することにより、よりよいものが生まれる。
- そのためには、四国の美しさを再発見し、地域の魅力を拡げていくこと。四国内の各地域の交流・連携を深め、数珠繋ぎの関係をつくる必要がある。
- 「美しい四国づくり宣言」は地域の住民の方々や活動団体、企業、行政その他の関係者に「美しい四国づくり」の取り組みの大切さを訴え、住民主役の美しい四国づくり運動を喚起するきっかけとして、平成18年7月1日に開催した美しい四国づくりシンポジウムの場にて「美しい四国づくり」宣言を採択した。



写真6.1 遍路道

## 2 美しい四国づくり宣言

### 1) 美しい四国づくりの意義

瀬戸内海の美しい島々、見上げる山々、清流と溪谷、そしてお遍路文化。

四国に残された豊かな自然や歴史・文化、ふるさとの原風景は、かけがえのない日本の宝です。

これからの「心」の時代に、これらを活かし、人々の心を温かく包み込む、五感に訴え、心の安らぎを与える美しい四国を築いていくことが大切です。

#### 【基本となる視点】

- 四国に残された豊かな自然や歴史・文化、原風景等は、価値観が多様化する現在において、かけがえのない日本の宝である。
- 四国の美しさは歴史に根ざす自然と風土があいまった美しさであり、地道な人の営みによって守られている。お遍路は、その美しい風景に心象風景を重ねて癒されていく。
- ボランティアが自然に働きかける美しさのように、ものの豊かさより心の豊かさ、経済的効果だけでなく、文化や伝統、心、風景といった価値を大事にする時代において、四国の価値は高まっており、目・耳・口・全身で美しさを感じ、やすらぎを与えることのできる魅力ある地域づくりが大切である。
- 美しい四国事例の実例は、身近にある物語を如何にみつけるかがポイントとなっている。

### 2) 地域での取組内容

そのため、四国伝統の普請やお接待の精神を大いに発揮し、心をひとつに、「住んで良し、訪れて良し」の四国づくりを進めます。

そして、この魅力ある四国を、国内はもちろん世界に発信していきます。

すばらしい四国の未来を願って、ここに美しい四国づくりを宣言します。

#### 【基本となる視点】

- 地域の共有財産は自分達で造るという普請の精神、お遍路さんへのお接待を文化として受け継ぐ。
- 外の空間は皆のものであり、皆でよくするという意識をもつとともに、個人の敷地の施設でも、全体の景色の一部であるという公共の意識を醸成する。
- 住んでいる人が暮らしやすい、気持ちよく生活できる場所が、訪れる人にとっても魅力的で気持ちよい場所との考えのもと、地域が連携して地域づくりを進めるとともに、地域の物語をネットワーク化させる。
- 感動が感動を呼ぶうまいまちづくりを目指す、わかりやすい目標を分かち合う。

### 3) 美しい四国の未来に向けて

- ふるさとの原風景を守り育て、いきいきとした人々の営みにより、美しい四国を創造します。
- 地域の自然や文化に誇りと自信を持ち、おしゃれて洗練された魅力へと磨きをかけていきます。
- 四国内外に交流の輪を広げ、おもてなしの心をもって、訪れる人々を心から歓迎します。
- 地域をつなぎあい、「四国はひとつ」の取組を進め、四国ブランドを世界に情報発信します。
- 地域が主役となって、人を育て、市民も企業も行政も連携してこれらの取組を進めます。

#### 【基本となる視点】

- 自分たちの地域や暮らしをどうするかを自分達で考え、改善していく。
- 地域のいいところをみんなに見てもらい、地域のありふれた風景を外部の人の新鮮な目を通じて、地域の資源を洗い直す。
- 風景づくりは、地域から守る努力をしてこそ配慮される。
- 地域の人が自らの地域のことをもっとよく知り、地域の良さに自信を持ち、地域で共有する。
- おもてなしの心で暖かく旅人を迎え、四国内外の他の地域の人々と語り合う機会を増やす。
- 情熱を持ったリーダーががむしゃらに周囲を引っ張ることが継続につながる。
- 地域間において、適度な競い合いが互いの魅力を磨くこともある。
- アイデンティティをもって自立した個々の地域が連携・交流することにより、地域の魅力を磨く。
- 四国全体として統一的な景観コンセプトをつくる。
- 訪れる人の立場にたって、人のこころを動かす情報を伝えることが大切である。
- 地域主役、行政支援の精神のもとで実施する地域づくりは、企業も行政も参加する地域全体の展開につながり、子ども達に地域の良さを伝えていく。



写真6.2 直島(香川県)



# 美しい四国づくり宣言

美しい四国づくり委員会

瀬戸内海の美しい島々、見上げる山々、清流と溪谷、そしてお遍路文化。  
四国に残された豊かな自然や歴史・文化、ふるさとの原風景は、かけが  
えのない日本の宝です。

これからの「心」の時代に、これらを活かし、人々の心を温かく包み込む、  
五感に訴え、心の安らぎを与える美しい四国を築いていくことが大切です。

そのため、四国伝統の普請やお接待の精神を大いに発揮し、心をひと  
つに、「住んで良し、訪れて良し」の四国づくりを進めます。

そして、この魅力ある四国を、国内はもちろん世界に発信していきます。  
すばらしい四国の未来を願って、ここに美しい四国づくりを宣言します。

- ◎ ふるさとの原風景を守り育て、  
いきいきとした人々の営みにより、美しい四国を創造します。
- ◎ 地域の自然や文化に誇りと自信を持ち、  
おしゃれで洗練された魅力へと磨きをかけていきます。
- ◎ 四国内外に交流の輪を広げ、おもてなしの心をもって、  
訪れる人々を心から歓迎します。
- ◎ 地域をつなぎあい、「四国はひとつ」の取組を進め、  
四国ブランドを世界に情報発信します。
- ◎ 地域が主役となって、人を育て、市民も企業も行政も連携して  
これからの取組を進めます。

(原文)

## 美しい四国づくり委員会 委員名簿

〈委員長〉	<b>梅原 利之</b>	四国観光立県推進協議会会長
	<b>木村 尚三郎</b>	静岡文化芸術大学学長、東京大学名誉教授
	<b>西村 幸夫</b>	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授
	<b>福武 總一郎</b>	ベネッセコーポレーション代表取締役会長兼CEO
	<b>大西 淳</b>	四国経済連合会会長
	<b>立木 さとみ</b>	立木写真館常務取締役、四国のみずべ八十八カ所委員
	<b>井原 理代</b>	香川大学大学院地域マネジメント研究科長
	<b>楠瀬 路易子</b>	社団法人 高知県建築士会理事、女性部会相談役
	<b>石森 秀三</b>	国立民族学博物館文化資源研究センター教授
	<b>岡田 円治</b>	NHK松山放送局長
	<b>石田 育男</b>	四国運輸局長
	<b>北橋 建治</b>	四国地方整備局長

(敬称略)

(平成18年7月1日美しい四国づくりシンポジウム開催時点)